

序

熊本野生動物研究会会長

西岡 鐵夫

今、環境は世界的な問題に高まっています。人類の生存基盤である多様な生態系を形づくる多くの野生生物は、自然環境が育んでいます。ヒトは、その重要性を考え、その調査・研究の必要性を認識しなければなりません。

私たちの研究会も、はや11年目を迎えましたが、この環境問題、自然環境の保全は、会発足からの基本理念であり、生き物とヒトとの関わりあい、即ち野生生物と人間との共存を念頭に、野生生物の調査・研究をつづけてまいりました。

この間、多くの方々からいろんな方面で、ご指導、ご協力をいただいたことには感謝の言葉もございません。厚くお礼申し上げます。

特にアフリカへの研修・調査隊を派遣した際には、関係各位の一方ならぬご理解とご支援を仰ぎました。地方の一民間団体にすぎない本研究会が、3週間の長きにわたり、16名もの隊員を派遣できましたのも、一重に皆様方のおかげでございます。重ねてお礼申し上げます。

このアフリカの成果「野生の息吹と感動」は、高校用のスライド教材・ビデオ教材に作製して授業に利用、また各校内での写真展などに活用させていただき有意義なものになりました。

一方、熊本日日新聞への連載、熊本動植物園でのパネル展示など、諸企画を通じて一般の方々にもご報告することができました。

ともあれ、この会誌は、本研究会の調査・研究の集約ではありますが、会の軽重が問われるのもこの会誌でございます。本研究会の今後の発展のためにも、忌憚なきご意見、ご助言など多くのご指導がいただければ幸いです。